

第 6 回宗像市総合計画審議会（みんなで取り組むまちづくり部会） 議事要旨

日 時	平成 26 年 3 月 26 日（金） 19 時 00 分～21 時 00 分
場 所	市役所第 2 委員会室
出席者	【委員】木村秀子、松永年生、前田 誠、梶栗みき、山下永子 南 博 【欠席】十時 裕、松田美幸、 【事務局】中野部長、塔野課長、田中係長、立花係長、狩野、新海、赤田 中村、吉武 古川課長、村上参事、長谷川課長、井上理事、安部課長 本田係長
報告	1) 第 5 回宗像市総合計画審議会部会の議事要旨について
議題	1) 第二次宗像市総合計画 基本計画案について
その他	第 7 回以降の開催日について

1 課長あいさつ

2 報告・確認事項

(1) 第 5 回宗像市総合計画審議会の議事要旨について
事務局説明

(2) 第 5 回部会の意見に対する対応について

【情報受発信の充実】

事務局説明

(副部会長)

都市ブランドの「内外に受発信」という表現についてはこれでいいのか。

(事務局)

ただ単に発信するだけでなく、受信もすべきだということで「受」という文言を入れたところだ。

(部会長)

「魅力的な宗像ならではのライフスタイルを内外にわたって受発信することで」という

表現はどうか。

(事務局)

そのような形で修正させていただきたい。

(部会長)

「宗像のならではの」という文言が3カ所出てくるが、もう少し言い回しを考えた方がよいのではないか。

(委員)

前回の議論では、「山の暮らし、海の暮らし、街中での暮らし」など多様な暮らし方ができるところが宗像の魅力ではないかということだったと思うが、これを読んだだけでは、その辺が伝わらないのではないか。

(委員)

都市ブランドで「宗像ならでは」ということを強調するのであれば、「宗像だからできる」、「宗像だから選べる」など、攻める言葉を入れてもよいのではないか。

【計画的かつ効率的な行政経営】

事務局説明

(委員)

「市民との対応力」という文言があるが、それ以前に市民との対話やコミュニケーションということが大事ではないか。

まずは相互の理解からというところをあえて入れた方がよいのではないか。

(事務局)

対話がまず先というのは本当に基本的なことであると理解しているが、それを総合計画の中でどこまで書き込むかどうかということは検討させてほしい。

(委員)

「人材の育成・活用と組織力の強化」の取組方針について、この記述では、取組事業が「職員研修」や「職員間の連携強化」になるのではないか。

文章の流れを整理したほうがよいと思う。

(事務局)

そのように整理したい。

(部会長)

「市民との対応力」というよりは、「市民への対応力」という表現の方がわかりやすいのではないか。

(委員)

「持続可能な行政経営」の取組方針で、「行政サービスや事務事業のゼロベースからの見直しに着手します」という文言があるが、具体的にいつぐらいからやるのか。

また、見直しの体制については、専門家の意見を伺うような、改善会議のような場を利用するのか。

(事務局)

事業については、毎年実施計画を各課で作成し中身を精査しており、今年度からは、実施計画から予算編成までのトータル的な仕組みの見直しに取り組んでいる。

改善会議については、改善会議という名前でやるかはわからないが、第二次総合計画のスタートに合わせて、行政内部だけで事業の取捨選択をするのではなく、第三者による評価の仕組みを新たに検討しているという段階である。

(委員)

第三者による評価の仕組みというのは、すべての事業で評価する仕組みをつくるということなのか。それとも改善会議のような会議に乗せるものを取捨選択するための仕組みづくりなのか。

(事務局)

行政の事業は全部で 500 以上ある。それらを改善会議ということですべて見るということにはならないと思う。

その中で、第三者委員会についてはどういった事業をのせていくかということも検討していくことになってくると思う。

3 審議事項

(1) 第二次宗像市総合計画 基本計画案について

【アセットマネジメントの実践】

事務局説明（配布資料について）

(副部会長)

施設白書とは、第三者機関などが作成するものか。

(事務局)

施設白書は、コンサル業者に委託して作成している。

今年度いっぱい作成ということで、もう時期でき上がると思う。

(部会長)

「長寿命化に努めるとともに保全後の補修や運営に要するコストを平準化し」とあるが、コストを平準化するとはどういうことか。

(事務局)

平準化というのは、例えば5年間のサイクルで、1年目、3年目だけ突出してコストがかかるということがないように、1年目、2年目、3年目を同じくらいのコストでやっていくということである。

事務局説明（修正案について）

(委員)

ここのインフラ整備というのは、何年後を見据えてやっていくのか。

(事務局)

基本的には30年を一つのスパンとして、この30年の中で、建物、プラント、インフラ全てについてマネジメントをしていくと考えている。

(委員)

例えば100年後を見据えた30年というような視点で行われるのか。あくまで30年なのか。

(事務局)

あくまでも計画期間は30年。

例えば100年後を見据えた場合、社会情勢等も変化していくので、一応30年を一区切りとして適宜見直しを行っていくが、30年たったからこの計画が終わりということではない。

(委員)

宗像市公共施設アセットマネジメント基本方針には冒頭に「宗像市が保有する資産のうち」というように「資産」ということをしっかり認識しているが、基本計画になると公共施設や公共インフラというところから始まっている。

主な取組事業にある、「市民との情報共有の促進」については、公共施設等について、市民が自分のものというイメージを持ててないと思うので、もう少し自分が主体的になって考えられるような表現を加えたほうがいいと思う。だからどこかに「資産」という文言を入れてほしい。

アセットマネジメントということであれば、私たち一人ひとりが実は持っている資産について、今後どう価値を増していくのかというようなことがニュアンスとして入っていればよいのではないか。

(事務局)

確かに資産というふうに入れることによって、市民にとっても、自分のことのように感じるようなインパクトが出るのではないかと考えられるので、例えば「資産である公共施設」というような表現についても検討したい。

市民との情報共有については、各種の情報等を市民と共有しながら進めていくということで、啓発というか、意識づけというか、そういったものができないかとは考えている。

(委員)

そもそも市民はアセットマネジメントというものがわかるのか。

(事務局)

アセットマネジメントに関しましては、市民の理解なくしては進まない事業だと認識している。

これについては、広報紙、ホームページ等を活用して、アセットマネジメントとは何かといったような話から丁寧に市民に周知する必要があると考えている。

(委員)

説明の際には、市民の身近なものに例えるなど情報の出し方や情報共有の手法についても検討してはどうか。

(委員)

今後資産のますますの価値向上を市民と一緒にやっていくという意味では、都市ブランドとして書いてもよいのではないか。

(副部長)

施設白書を何年おきにつくるとか、何年おきに見直すということはあるのか。

(事務局)

現在作成している白書だが、市の財産についてどういうものがあるのかというところの把握であるため、一度つくればその後はないと思う。

ただ、更新していくので、更新する段階では白書の方もつくりかえていくという形にはなると思う。

【連携によるまちの経営】

事務局説明

(委員)

「広域連携の推進」の現状課題について、今地方分権と生活圏の拡大というのがあがっているが、生活圏の拡大というより、人口の減少と高齢化による世帯規模の縮小、人口の散在、限界集落があらわれるなど、まとまった市民の集落が減少し、サービスが機能的に行われなくなっているということも現状課題として挙げたほうがいいのではないか。

また、人口の面と交通の面という視点も必要ではないか。

(事務局)

指摘のとおり検討したい。

交通については、別の部会との兼ね合いもあるため併せて検討したい。

(委員)

「広域連携の推進」の主な取組事業に、福岡都市圏宗像地区路線沿線自治体などとあるが、宗像ならではのということでは、福岡都市圏と北九州都市圏と両方書いてもよいのではないか。

(事務局)

実際北九州市との連携は深めているため、そのように検討したい。

(委員)

「広域連携の推進」の取組方針について、道州制や大都市制度の研究を関係自治体と連携して取り組んでいくということが書かれているが、宗像における検討という意味では、基礎自治体の水平連携のあり方に関する研究といったことのほうがよいのではないか。

(事務局)

指摘のとおりかと思うので事務局で検討したい。

(委員)

「地域資源の連携の推進」の主な取組事業に「人材、団体バンクの創設」とあるが、今何か考えていることがあれば教えていただきたい。

それともう一つ、戦略的取組の協働について、市民活動団体などの自己実現の機会を確保するためとあるが、市民活動団体の自己実現を確保するために協働があるというのは違和感がある。

施策概要についても同様である。

(事務局)

まず人材、団体バンクについてだが、市内外も含めた、人材と団体バンクは、まだ具体的に計画があるわけではないので、これから取組事業として掲げてやっていかないといけないと思っている。

戦略的取組の協働の自己実現については、確かに不適切なところもあると思うので、検討させてほしい。

(委員)

「地域資源の連携の推進」の上では、コーディネート機関というのが本当に大切なものになっていくと思うので、その辺の具体策というのを早く形にしてほしい。

(副部長)

都市ブランドにコミュニティが入らなくてもよいのか。

(事務局)

指摘のとおり検討したい。

(委員)

人材、団体バンクとういのは、現在無いものを創設するというだけでなく、ほかのところを紹介するところから始めてもよいのではないか。

また、行政がバンクをつくるということではなくて、交流会等を通じて、近隣で地域活動をしている人たちが一同に情報交換を行うようなイベントをやるといような事業も検討してはどうか。

もし創設するのであれば、本当に市民が使いたくなるようなものを検討してほしい。

(委員)

「広域連携の推進」の生活圏の拡大や多様化するニーズへの対応というのがよくわからない。

また、それがごみ処理、水道事業、世界遺産登録、観光事業とどう結びついてくるのか。

(委員)

生活圏が拡大していることについては少し疑問がある。

(事務局)

拡大という表現については捉え方がいろいろあると思うが、宗像市内だけではおさまっていないという意味合いであるため、宗像市内だけで解決するのではなく、他の自治体と連携してやったほうがいいものもあるのではないかということである。

もともと、生活圏の拡大についての記述の背景として、モータリゼーションの進展による自動車保有台数の微増というところがあった。表現については検討させてほしい。

(部会長)

視点としては地域が抱える課題、取り組まなければならない課題が広域化しているということなのかもしれない。

(委員)

施策概要について、二つある施策区分のうちの「地域資源の連携の推進」の説明しかしていないように読めるが、「広域連携の推進」については触れなくてよいのか。

(委員)

各セクターの連携の話があって、どうしてそういう個人の自己実現や生きがいの話が出てくるのかということと、そういう個人的なものではなくて、各種の人たちが何か地域で目標としているようなことを達成するような機会を創出するとか、そういうニュアンスの方で整理を考えた方がよいのではないか。

(事務局)

指摘のとおりなので検討させてほしい。

【情報化の推進・情報の適正管理】

事務局説明

(委員)

「情報化の推進」の現状課題について、「情報化の推進」という施策区分にもかかわらず、情報化の進展に伴ってと書き出しているところがわかりにくい。

ここは、ICT技術の急速な進化とか発展など、技術が急速に変化しているということを言いたいのであれば、そういう方向で言ったほうがよいのではないか。

また、ICTという表現について、施策概要では出てくるが、他のところでは出てきてない。

(事務局)

情報化の進展に伴ってというところは、まさにそういう情報技術の進展に伴ってというところの意味を表しているので、そのように修正したい。

ICTに関しても、指摘のとおり修正したい。

4 その他

(1) 第7回以降の宗像市総合計画審議会（みんなで取り組むまちづくり部会）の開催日について

第7回 4月11日（金） 19時から第二委員会室

第8回 4月22日（火） 19時から第二委員会室